ケニア森林研究所研究員の訪日研修について

1. 林木育種センターの国際協力活動

林木育種センターでは、これまでに中国、インドネシア、ウルグアイにおいて、JICA技術協力プロジェクトに参加し、カウンターパートとともに林木育種に係る研究や技術移転を実施してきました。2012年からは、アフリカのケニアで、JICA技術協力プロジェクトを通じて、育種研究について支援・指導を行っています。

林木育種センターの研究員がケニア森林研究所（以下、「KEFRI」という。）との育種研究や技術移転を図るこのプロジェクトは、既に3フェーズ目に入り、これまでKEFRIと育種研究を進めながら、ケニアの郷土樹種であるスワヒリ語でセンダン科のムカウ（*Melia Volkensii*）及びアカシア科のムンガ（*Acacia tortilis*）について、精英樹の選抜、第1世代精英樹の採種園の造成、第1世代精英樹の検定林の設定、第2世代精英樹の採種園の造成等を実施しました。また、本研究の中で得られた研究成果については、2024年6月に開催された第26回IUFRO世界会議において、4名のKEFRIの研究者が発表を行いました。

2. 課題と訪日研修の実施

このように本プロジェクトは順調に進んでいますが課題もあります。その1つとして次世代を担う研究者の育成があげられます。KEFRIでは、50代と20代の研究者が多い一方、30代から40代の中堅の研究者が少なく、さらに、これまで育種研究のマネージメントを行ってきた研究者は定年退職が間近の状況になっています。このため、KEFRIの若手研究者の育成が急務となっているところです。

林木育種センターは、JICA、KEFRI側と協議の上で、10月に若手4名を含むKEFRI研究者を招へいし、座学、実習、現地視察等でムカウと類似の種であるセンダン（*Melia azedarach*）の森林経営及び木材利用の視察を含む林木育種の訪日研修を実施しました。

本研修は、週単位で4つに区分し、第1週目は林木育種センター職員による育種学の講義を、第2週目は静岡大学農学部において、育種に応用可能な技術の紹介・体験を、第3週目は熊本県、福岡県に赴きセンダンを用いた造林経営、木材利用の視察、4週目は上記の知見を踏まえて2024年から2029年までの本技術プロジェクトのフォローアップ等を含む研究計画の立案を行いました。

約1ヶ月間にわたる長期間の研修でありましたが、訪問先での丁寧かつわかりやすいご説明とご案内等のおかげで、順調に研修を進めることができました。また、研修生は脇目も振らず、ノートをとり、新しい知識を吸収しようとする積極的な姿が見られました。

最終週においては、KEFRI本部やJICA本部等とオンラインで繋いで、研修生から今後5カ年における育種研究の計画案の発表やケニアで開催されるIUFRO2029の発表に向けた研究テーマ案について発表いただき、その後、質疑応答や意見交換を行いました。これらの発表に対して、センター研究者、KEFRI研究者やJICA本部から、鋭い指摘や助言をいただけたことは、参加した研修生のみならず、この研修を企画、支援したセンター職員、研究者にとっても、意義深いものとなりました。

最後に、九州の木材産業事業者、静岡大学農学部をはじめ、今回の訪日研修でお世話になった皆様に対して、深く感謝申し上げます。

（写真：駐日ケニア大使との記念撮影）

駐日ケニア大使館を表敬し、本JICAプロジェクトの活動を報告したところ、大使館HPで紹介されました。

（指導普及・海外協力部　海外協力課
山下　正輝）